

# 教育者への LMS 活用教育の実践報告

藤井俊子\*1・田代雅美\*2・梅崎卓哉\*2・穂屋下茂\*1

Email: fujit@cc.saga-u.ac.jp

\*1: 佐賀大学全学教育機構

\*2: 佐賀大学 e ラーニングスタジオ

◎Key Words LMS, ICT 活用教育, 教員免許状更新講習

## 1. はじめに

著者らは、教育での ICT の有効利用を模索して、教える立場・学ぶ立場双方からの e ラーニング利用について学ぶ授業「教育デジタル表現」を教養教育の主題科目として開講してきた<sup>(1)</sup>。講義では、学習管理システム (LMS : Learning Management System) として本学が使用している Moodle について学び、学生の立場で学習する e ラーニング利用について学ぶ。その後、教員の立場で利用できるサイトで、実際に e ラーニングを利用した授業コースを作成し、教育での LMS の利用について学ぶ。ここで学んだ学生は、教育での LMS 活用の有効性を感じるとともに、教員に対しても LMS 活用を望むようになる。

そこで、教員免許状更新講習でも、小中高の教員向けに「学校現場で活用できる学習管理システム」という LMS 講習会を行うことにした。本講習の取り組みについて報告する。以下、本稿では、LMS 内での教員と学生をそれぞれ「教員」「学生」とし、大学の授業を履修している学生を「履修学生」、教員免許状更新講習を受講している教員を「受講教員」とする。

## 2. 講習会の開講意図

教育での ICT の活用が推進されているが、教育を実施する側の教員のスキルは、十分とは言えない。そこで教育での ICT 活用を促進するために小中高の教員向けに、教員免許状更新講習で「学校現場で活用できる学習管理システム」という講習会を計画した (表 1 参

表 1 教員免許状更新講習「学校現場で活用できる学習管理システム」の内容

項目	説明
ねらい 到達目標	学習管理システム (LMS: Learning Management System) 上で、e ラーニングが実施できるための初歩的な方法を説明。実際に、教員レベルで LMS を使用し、設定やコンテンツ作成を行い、学校現場の ICT 活用の有用性を学ぶことを目的とする。
講習内容	e ラーニングは、LMS 上で実施される。LMS として Moodle を使い、その機能について学び、フォーラム、資料提示、課題作成 (小テスト、レポート等) を行う。学校現場では、教員の ICT スキルの向上は必須である。この講習で学んだことを、学校の授業で生かして欲しい。講習は、実習形式で PC を使用して実施される。

照)。

教員免許状更新講習は、講習時間が試験も入れて 6 時間ということで、通常の授業よりもはるかに短時間である。しかも、他の授業で多少利用経験がある学生とは異なり、LMS の使用経験もほとんどない。また、身近に LMS 環境がない場合も多く、講習後すぐに使用する機会も少ない。したがって、講習内容もかなり限定したものになってしまう。そこで講義の到達目標も、「LMS 体験」と「最低限のオペレーションスキル」とし、LMS が教育に利用できるツールとして体験できるような内容にした。

## 3. 授業「教育デジタル表現」の内容と教員免許状更新講習の内容

### 3.1 「学生としての LMS 利用」について

履修学生の場合、例えば「学習者での LMS 利用」として、授業時間内で様々な経験をする。毎回授業の後で実施するアンケート、レポートの提出、自己紹介・意見交換、資料の参照などを、すべて LMS を利用して行っているため、まったくの初心者でも、回を追うごとに使いこなすようになる。

これに対して、受講教員の場合、全くの未経験者がコースを作成するため、シンプルな機能説明を心がけた。アンケートや小テストにはさまざまな設定項目があるが、概要説明のみとし、実際に作成するものと同じものを経験する構成とした。

### 3.2 「教員としての LMS 利用」について

履修学生は、1 グループ 7 人程度のグループで一つのコースを作成する。ここでは協調しながらコンテンツを作成することが求められる。もし、他のメンバーのことを意識せずに作成をすると、同時にコース設定を変更したり、同じ名称の小テストや課題を作成したり、作成のルールを守らなければ、他の人が作成したものを削除したり変更したりする可能性もある。そのようなことが無いように、確実に機能を理解し、協調してコース作成を進めていく必要がある。

一方、受講教員の場合、一番の目的が「教員免許状更新」であり、最終試験に必ず合格しなければならない。他の人のミスにより不合格になるようなことがあってはならない。そのため、ひとりひとりがひとつのコースを作成するようにしている。コースに設定されている教員は本人だけで、隣の受講者とペアになって、「教員と学生」の役割を交互に体験する。作成する

項目も、資料の提示、フォーラム、オンライン課題、4 択の小テスト、投票、ラベルなどの基本的な項目のみとした。

### 3.3 使用する LMS について

大学の授業の場合、履修学生は、「通常大学の授業が開講されている LMS」と「シングルサインオンで連携する LMS」の 2 つのサイトを使用する。この通常サイトで、履修学生は「学生としての LMS 利用」を学ぶ。さらにもうひとつのサイトでは、履修学生に教員権限を与えて「教員としての LMS 利用」を学ぶ。2 つのサイトを使用するのは、先にも記したが、教員権限を持った履修学生の使用方法によっては、誤ってコースを破壊する可能性も皆無ではないことを考慮して、他の授業に影響を及ぼさないようにすることが大きな理由である。

一方、教員免許状更新講習の場合、少ない時間でサイトを使い分けるのは混乱をきたすため、同じサイトに学生として受講するコースを設置している。受講教員は、サイトにログインすると、「学生としての LMS 利用」のためのコースと「教員としての LMS 利用」のためのコースが表示される。

## 4. 実施状況

### 4.1 昨年度の実施状況

昨年度初めて開講した講習は、開講が 2011 年 7 月 30 日、対象が「小・中・高教諭、養護教諭」、受講者は 69 名で、講師に 2 名の教員、サポートとして 3 名の職員、3 名の学生で実施した。サポートの人数を多くしているのは、初めての開講ということもあるが、職員・学生ともに講習者としての研修も兼ねている。また、職員は今後の講習内容や手法を検討する目的でも参加している。

受講条件は「ファイル操作、文字入力などのパソコンの基本的操作はできること」としており、予習項目にも「Microsoft Word を使用するので、文字入力、ファイル操作が問題なくできるようにしておく」となっている。しかし、シラバスを読まずに日程だけで受講を決め、スムーズに文字入力ができない人も少なからず

受講している。そのため初心者にもすぐに対応できるサポート体制に、評価は高かった。

### 4.2 受講教員のアンケート結果

受講後アンケート結果の一部を図 1 に示す。「受けてよかったかどうか」には「受けなければよかった」と答える人はいなかったものの、「わからない」と答えた人には、「実際に現場で利用する機会がない」とコメントする人が多かった。講習内容に関しては、若干ではあるが「物足りなかった」「簡単だった」という意見もあるが、「難しかった」という意見がかなりあるので、内容の見直しも必要である。しかし、「難しかった」と言いつつもアンケートの自由記述では、ICT の重要性や学校への導入の期待などに言及するものも多く、講習の必要性は十分に感じられた。

### 4.3 今年度の開講に向けて

「教員免許状更新講習」は、受講教員全員が必ずしもその趣旨を理解しているとは言えず、「新しい分野に挑戦しよう」、「最新の知識を得よう」というようなモチベーションが高い人だけでなく、「更新のために必須だから」受講するという場合もある。昨年度の実施を振り返ると、感想に書かれた受講教員からの要望は、「もっと高度なものを」という前向きなものから、「試験に通ればよいのもっと簡単なものを」というものまでさまざまであった。そのため今年度は、初級、中級と 2 つの講習を開講し、もう少しレベルの高い機能を知りたいという受講者のニーズに応えられるようにした。

## 5. おわりに

本稿では、大学の授業をアレンジして開講した教員免許状更新講習の実施状況を報告した。発表では、今年度のデータを交えての報告を行う。

### 参考文献

- (1) 藤井俊子, 田代雅美, 穂屋下茂: “授業における LMS 活用の実践事例—LMS 利用促進を目指した授業—”, コンピュータ&エデュケーション, Vol.31, pp.66-69 (2011)

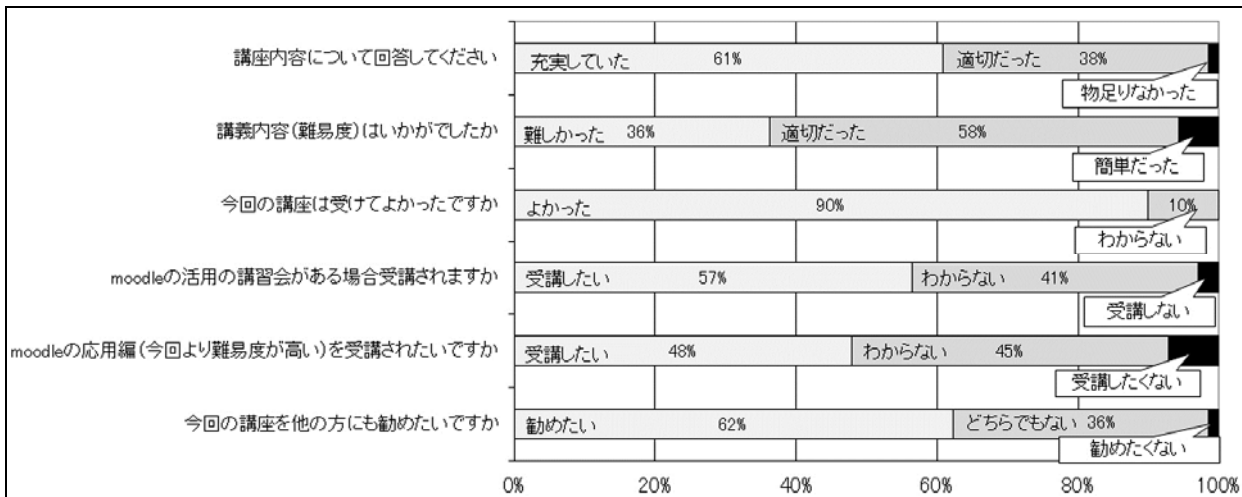


図 1 「教員免許状更新講習」受講後アンケート結果